

勿論談



1 人ノ身上乏ケレハ民ハ其父母ヲモ安スルヲ能ハス
 2 仁義ヲ失フ本ナレハ上ヨリ下ニ至マテ生産ヲ
 3 理^{ラカスル}ヲ第一ノ計トスヘキ事ナリ、鰥寡孤獨ノ類ノ窮
 4 民ハ格別苟モ分限アル者ハ古聖王ノ制度ニ隨
 5 節儉ヲ行ヒ分限ヲ定セハ甚困窮スルヲナシ、縱
 6 大災續ニ來ルトモ彌儉約ヲ守リ家職ニ怠リナケレハ

1 終ニ滅亡スルヲナシ聖王ノ制ハ其人ノ年中ノ所入ヲ量
 2 テ其四分一ヲ畜ヘ吉凶非常ノ備トシ四分カニヲ以テ
 3 一年中ノ資用トス、過不足ナク斟酌シ用ヒ合ルヲ
 4 分限直ヲ得ルトス、用テ不足ナラハ奢ラヌ様テモ奢也
 5 若又其四分カニテ餘ス程ニ簡略スルハ都方^{リシ}吝嗇^シ過テ
 6 失^ル故ニ此法ハ生計ノ基節儉ノ道也、隨ハハ安ク
 7 違ハハ窮ス必然ノ理ナリ、

1/3 一民ノ困窮ハ其家法分限ニ過ル故也畢竟天下ノ

2 禮制精シカラス貴賤ノ差別鹿ナル故ニ飲食衣

3 服器財家作ニ至ルマテ金錢アル者ハ百姓モ士大

4 夫モ同様ニテ太刀サハ帶サ子ハ御咎メモナシ殊

5 傾城河原者ノ類ニハ綾錦モ御構ナキヤ自

6 然ト田舎マテ移リ下部モ奢ヲ習ヒシ也世ノ中

7 太平潤澤ニテ奢モ增長スト思フ人モ有ニ全ク然

1/4 ラス人ニ使ハル、奴婢ホトハ窮民ハナケレモ少シノ

2 給分ヲ費シ鼈甲ノ筭、名古屋屋敷會ヲ用ルノ類ハ

3 豈潤澤ノ故ナラヤ假令ハ女ノ嫁^{ヨメ}ノ支度モ世上一

4 同ニ飾ルニハ兒女輩身命ニ易ハテ衣服ヲ願ス貧

5 家ナレドモ因恋愛ニ迷ヒ田畠家宅ヲモ質ニシ金錢

6 ヲ借り出シ無益ノ品ヲ買求メ強負ヲ増シ敗業ニ

7 及者多シ好テスルニ非ス一同ノ弊風ニテ亦餘義

々モナキナリ、百姓各各自分ニモ此風ヲ止ント思ヒ、
二村法度ナド定ムルヲアシトモ世上一同ナラガレ縁
組其外ノ義理ニ故障モ有テ終ニ成モ成就セ
ス、何トソ一同ニ風俗變ズル程ノ御政務アリカ
シト、渴望スル時節ナレハ嚴重ノ御法度アリタ
キナリ、毎度御徇アレトモ唯一通ニテ遂テ御
吟味モナシ、在郷ノ木綿染ナト御吟味アリテ、絹

五

六

服織物ノ賣買ヲハ御構ナキ様ノアニテハ御儀止笑
度御徇アリテモ改リ難カルヘシ

一百姓ハ皆愚ナル者ニテ、日日善教ヲ諭シ至ヒ
テモ却テ疑ラ生シ感得シ奉ル者ニ非ス、古ヨ
ク如是者ト見ヘ所謂民可使由不可使知トア
ルハ教ヲ聽サル故ナルヘシ、然レハ奢ヲ止ルニハ
其道ヲ塞キ玉フテ、所要ナルヘシ

御城下呉服店在在、市町絹服ノ賣買他國ノ
絹商人ノ出入マテ一向ニ御停止アリタシ、諸士方
ハ江戸ヨリ求ムルモ自由ナリ、百姓ハ江戸ヨリ求
ル程ノ事ハ無ルヘシ、當座ハ商人難義ノ様ナシ、
家業ハ別ニ種種アリ、呉服ハ奢ノ本ナシハ先第一
ニ御禁止アリタシ、若シ此ニ御容アリテハ博奕
ハ御停止ニテモ頭取、目明シ、ナントテ御用

八

七

有ト同ク相止マシムルハカラス、商家ノ利ヲ抑
ヘル事ハ古ヨリ國政ノ常法也、殊ニ呉服商賣
ノ者ハ御國中ニ數人ニ過ス、百姓ニ比ヌレハ尤
牛之一毛也、凡テ百姓町人ハ貧富トモニ布
木綿ノ外ハ着用セサル格ニ有タキナリ
一奢ノ御吟味ハ先正月ヨリ、御城下ノ町人モ木
綿服在郷ノ婚禮年禮新嫁ノ裝束皆木綿ナ

九ルヘシ正月ト極月ハ目付ノ役人ヲ左郷へ出シ若
 内着ニナリトモ、絹類ヲ用ル者ヲ捕ヘテ過料ヲ
 取ルヤウニアリタシ其外ニ穀止番人山横目等
 平生ノ目付仰付ラレ、芝居市町祭礼等二三
 年モ嚴シク御吟味過料御用捨テ諸事
 看者モ隨テ相止ベシ但入寺入獄等御役所
 モ事繁ク民モ歎疲ル也何程嚴ク御吟味過

九

料大義ナリトモ入獄ニテラカレハ絹服看スル
 程者ハ甚痛ニ感サレナリ
 一民ノ害ニナル者ラ一ツ宛モ除キ去ルテ善政ナ
 ルヘシ博奕ハ至極ニ人ノ好事也御製不緩
 ケレハ必盛ニ成テ良民ヲ損サスナリ先年安良
 川市博奕盛ニテ僅ニ三日ノ間ニ郷中
 農民身上痛メシ者多カリレカ近年吟味嚴

十

重十九故俄ニ破家スル者ナク、郷中静ナリ、是
ニ由リ觀ル、是嚴重諸事ノ御材止
キナリ博奕ハ訴人ノ道ヲ啓キ王ヲニ如クハナシ、
若シ訴人スルニ於テハ同類ノ博奕者ナリ、其罪
ヲ宥シ、其負金ヲ殘ラズ取返シ玉ハルベシ、然ラザレ
ハ負人ノ親類訴人セント欲スレ共、其當人ノ負徒
モ面成敗ニテ、其罪ニ落ル御法ナリ、此ヲ恐レテ黙止

十一

居ル故ニ、負損勝得トナリ、博奕除繁昌ス、假令
博徒ノ惡類タリ共、訴人ニ及ハ、却テ其罪ヲ御用捨
ナラハ、自然ト相止ヘシ、愚民ヲ誘ヒ負サテハ博徒ノ
世計ニ成カタシ、負セハ露見ニ取カサル、事ナレハ博奕
ハ無益ナリトテ、其業ヲ舍テ、農業ヲ勤ムルヲ必定也、
博奕連坐ノ者ヲモ入獄追放等ノ御法ノ御教ニ唯
過料錢等ノ御扱ナラハ、人多ク損レ破レヌ故、訴人

十二

1/3
者、猶豫ナク申出ベシ、是告訴ノ道ヲ啓カハ、博
奕止スト云フナケン

2
3
4
5
6
7
農民ノ多キハ、國ノ肥タルニテ、善政ノ驗ナリ、故ニ聖
人ハ、游民ヲ惡シ、商ノ利ヲ抑ヘ、農民ノ盛ナラシム
欲ルナリ、然ルニ近年農業勞多ク、功少トテ、工商ニ
ナリ、或博徒游民ニ成者多シ、農家年年ニ減ス、
是皆奢風盛ニ隨テ、工商游民利ヲ得ル故ナリ、嚴

十三

1/4
重ニ奢ヲ禁シ、博徒ヲ戒メ、農民ヲ利シ、五ハ、是レ
本ヲ尚フナルヘシ

十四

1
2
3
4
5
6
7
今太平ノ御代ニ、忠功ノ民耕作ヲ出精スル者ニ止
レリ、或村ニ、五段歩ノ田アリ、窮民久ク所持シテ作
ル時ハ、年年多ク、比引ニナル大豊年ト雖トモ、乞引
ノ立ヌ、一ナシ、此田力アル百姓、手ニ渡リテ、後六年
年無引ナリ、毎年御貢初六俵宛新ニ上ニ奉ル也、

15 其外ノ田モ是ニ準レハ多年ニハ何程ノ御奉公ト云限
2 ナシ御國中ノ此類ノ百姓ハ皆忠切ナルト勿論ナリ、窮
3 民ハ其力ナキ故ニ是非ナク不忠ヲ致スナリ、然レハ
4 御國中ニ人多ク共工商游民ニ忠切ノ者ハ少
5 無キ道理ナリ、何トソ工商游民ヲ驅テ農辰民トシ、
6 田地ヲ作り足サレハ窮民モアマリ惡作ハセ又事
7 ナリ、然レハ皆一同忠切ノ民トナリテ御倉庫充ベ

十五、

16 1 故ニ聚斂多ク農民ノ痛ムハ御困窮ノ基ナリ
2 近年奉公人拂底ニテ抱ヘカタキ故田畠多ク作ル
3 百姓モ奴婢不足ニテ是非ナク惡作シテ不忠ヲ致
4 也此奉公人拂底ハ世間潤澤ノ故ニ非、又困窮故
5 ニモ非ス百姓人別自然ト減セシ故ナリ、人ノ生ズル
6 御政道肝心ノ急務ナランカ
7 當國ノ風ニテ子ヲ間引ト名ケテ、産所ニテ押シ殺ス

十六、

1 アリ昔ハ為シ方ナキ者ガカリ此事アリシカ近來ハ
 2 風俗トナリテ少シモ不善トモ不仁トモ思ハズ却テ多ク
 3 育ル者ハ身ノ分量モ知ラヌト嘲哂セラル故
 4 ニ是ヲ恥テ間引者モアリ兎角ニ子ヲ多ク育シ
 5 ハ身上ニ痛ムトテ二三人も喫テハ其餘必間引
 6 丁定法ノ様ニ成テ村役人ヲ始メ分限アル者多ク
 7 間引ナリ却テ窮民ハ間引者モ數少キ様ナリ

十七

然トモ骨肉天性ノ愛情ハ禽獸モ有ナレハ況ンヤ人ト
 1 シテ其心カランヤ上ノ御制禁カフ由カ又故ニ惡ク
 2 癖ノ付タル也今赤子ヲ間引者ヲ見ルニ隣家ノ
 3 者ナト無理ニ取障ハ取擧ルニ一月モ過キ其子
 4 少シ病テモ有^ル其父母終夜眠ラズ看病ス是天
 5 倫ノ本心也故ニ今 上ノ御制禁^ル嚴密ナ^リ民モ
 6 内心ニ感シテ怨^ミ奉^ル意アルヘカラス是モ過料ニ

十八

19
テ、御法度アラハ、何程嚴クナサレテモ、民ノ痛_ニ成_レヘカラス

- 1 赤子ヲ間引ハ、陰所ナレハ、御吟味モ成リ難キ事也、然_レモ切支丹ノ御法度ノ如ク成_ラハ、_ト云義アルハカラス、唯死刑ヲ罰金ニ易_カユル_トナレトモ、命ニツリ代ヘノ金ナレハ、民モ畏_レズト云_フナケシ、子ヲ不_レ鑿_テハ、元_ト金錢ヲ惜ム欲ヨリ起也、

十九

ニ十

- 1/20
- 1 毎年正月郡吏ヲ廻シ、村村百姓男女ヲ一人切ニ、庄屋所ヘ召呼、熊野牛五ニ血割サセ、赤子ヲ間引、或能_ク墮_レ胎ヲ殺サハ、神罰ヲ受ヘシト、誓文ヲ立サセ、タシ此所要ノ術ナラン
 - 2 子ヲ間引、訴人ハ切支丹ノ如ク、御褒美アルヘシ
 - 3 一村村ヘ神文ノ目付役人ヲ、庄屋ノ外ニ一人或ニ人モ立置、月月妊婦ヲ懐ニ付テ、吟味有_クタシ

1 遺犯者勿論隣家二三軒村役人モ過料アルキ也
 2 天地中ニ女ハ多生ル者ト見ユ生育ノ器ナレ故ナ
 3 ルヘシ成長シテモ遠方へ行フナク其所ニ住シ細密ニ
 4 業ヲ勤ル者ニテ實ニ國ノ寶ナレ男ニモ勝レリ女
 5 不足ナレ男ハ心放埒ニナリテ遠方ヘ馳廻リ農業ヲ
 6 セヌ也然レ此地ノ風俗ニ女ヲ多間引故ニ婢秧婦ノ雇モナク
 7 農業時ニ晚ル也女ヲ多育ル者ニ計モ御仁政アリタシ

ニヤ一

ニヤ二

1/22
 1 過料金ノ御定ニ分量アルヘキヲナリ百姓ノ分限上
 2 中下ノ三農ト水呑ノ窮民ト四段ニ御定メ窮民ハ
 3 何貫文中下ハ何兩上農何拾兩トモ有タキヲナリ
 4 子ヲ多ク育ル者ニハ三年御扶持米ヲ給ハラハ惡風
 5 止ント云者アリ是ハ至極ノ御仁政ナレトモ元來窮
 6 民ハカリ間引ニモアラズ過半ハ身上不足キ者
 7 介抱ノ勞ヲ厭ヒ且ハ末末ノ物入リ本家弱リテ慮
 8 ノイナレハ假令御扶持下サレテモ中民以上ハ續クス

1/23

ベカラス、是カ即友ノ障リト成テ、御扶持ヲ戴キ、子

2

ヲ擧ル者モ、稀ナルヘシ、然レハ中民以上ノ子ヲ不擧者

3

ヲ、嚴ク懲ス、御政道專一ナルヘシ、以テ生道殺人雖死不

4

愆況ヤ贖刑ヲ用テ死罪ヲ容シ給フ、是惠而不實ト

5

云モノナルヘシ

6

一百姓ノ次男ハ、親ノ讓リヲ受ル、子ノ四分一ナルベ

7

シ、三男以下ハ、讓リ配分一切ニ是ナキヤウシ、御下知

シイミ

1/24

有タキ事ナリ

2

一弃子ト云フ、古ヨリアリ、爲方^シ者ノ事^シ爲^ル事^シ殺ス

3

ヨリハ、殊勝ナル事ナリ、強テ御吟味アルベカラズ、

4

富者ノ邊へ弃タラバ、幸ニ拾ヒ擧テ、育ル者モ多

5

ルベシ、然レハ家奴普代ノ者モ多ナリテ、國ノ寶ノ

6

生ルナリ、若シ拾モノ無テ、凍餒^{コヘウ}シテ死ストモ、問引ニ

7

ハ勝シリ、弃子ノ風ハ流行サセタキ事ナリ

ニイ四

1/25 一 子ヲ不舉^{イヒカ}テ、御停止ノ嚴令、一日モ早ク下ラハ、御國
 中ニテハ、一日ニモ若干^{ソクバク}人命ヲ御救アル也、何ヨリ以
 テ火急^{イナレ}トナレハシ、七年之病、三年之艾ノ喻ノ如ク、
 今年ヨリ御下知アリテモ、年ヲ經テ驗アルヘシ、
 急ニ御益ハ見^ハストモ、日日ニ人命ヲ御救ヒ游ハス
 1/26 一 ナレハ、 國家ノ御祈禱、何カ是ニ及ラテ有
 一 過料ト云テハ、古ノ贖刑罰金ノ遺風ナレハシ、當時ハ

1/26 至極ノ輕事ニ分リ、御用ヒナリ、願クハ此事ヲ諸罪ニ
 御用ヒアリテ、入獄追放等ヲ御省^ケキアラハ、專政ノ
 一ナルヘシ、其故如何トナレハ、凡^ソ御刑罰ハ國民利
 益ノ為ナリ、然ルニ、今ノ御法ハ非アル者ハ皆村追ヒ
 郡追^ヒ御國拂^ヒ等也、御當國別テ人不足ノ地ナリ、大
 罪ノ死刑ハ格別、其他ノ罪過ハ罰金ヲ兼用アリテ、追
 放御用捨アリタシ、罰金ハ何ソノ御用^モルノミナラス、罪

1/27 人モ土地ヲ離シズ、産業シ、御田地ヲ作ル故ニ、是亦
 2 上ノ御益ト成ナリ、四罰金ヲ出ス、ノ叶ハヌ窮民ハ、
 3 ヤハリ舊ノ御法ヲ通リ、分論ナルヘシ、其中ニモ生質
 4 ハ直ニテ、農辰業ヲ能勤ル者カ、少ノ過^{アマリ}テ、罪ニ過^{アマリ}テ、
 5 ナレハ人皆惜ム故ニ、一族朋友才覺シテ、罰金出
 6 ス、アラン、捉ラ金錢ニテ賣ル、ト如何ノヤウニモ
 7 人ハ思フベケレトモ、是聖人ノ仁政ニテ、書經ニモ

ニヤセ

ニヤハ

1/28 見ヘタト、至極宜キ、トナルヘシ、凡テ聖人ノ法ハ、
 2 遠ノヤウナレトモ、故障ノ弊ハ鮮カレヘシ
 3 一當時ノ御刑罰ニ、燒印^{ヤキ}ヲ罪人ノ面ニ附ル、トアリ、是
 4 古ノ肉刑ノ遺ナルヘシ、肉刑ハ盜賊ノ輕罪ニ、至極
 5 宜キ刑法ナリ、其本意ハ、罪人ノ形ニ印シアレ、其
 6 シ恥テ、表^ヲテニ出張ル、トモ少ク、殊ニ惡人ノ看^{カシ}板^{イシ}ア
 7 リテ、他人モ油斷セヌ故ニ、其者重^{カク}テ、惡事ヲ行フ

1. 1. 得ス、然レトモ、其身丈夫ナレハ、只隱レテモ居ラ
 2. レ又故ニ、自然ト耕作ニ身ヲ寄ス、惡人却テ良
 3. 民ノ事ヲ為ナリ、是ニ由テ其罪ニ應ニ黜ヲシ、劓
 4. ソギ、剛キル^ミト、當今^ナノ御刑罰ニ互極宜キ^ナナル
 5. ヘシ、然ルニ今ノ燒印^{ヤキシ}ハ無益ナリ、其爛^ク愈^ムレ
 6. ハ、隨テ其痕モ消ル故ニ終ニ其利用ナシ
 7. 當時ノ御法ニ、小盜人イタツテ者ナド、先^ツ追放ニ

シヤ九、

シヤ十

1. ナサレトモ、此等^ノ輩ハ元ヨリ手足達者也、少^クモ屈
 2. ス^カ翔^ケ廻リ、形ニ印シナケレハ、良民ニ紛レ、種種ノ偽
 3. ヲ為^ス、或無宿トナリ、火附^ヒ馬盜^リ、強盜ノ大賊ト
 4. ナレトモ、形ニ印^シナケレハ、穿鑿^モ成カクシ、惡人ヲ
 5. 徒ニ追放ナサルハ、國土ノ盜賊ヲ増スナリ、若^シ肉刑
 6. ニテ、長ク消サル痕アレハ、何國へ渡リテモ、惡事
 7. 自由ナラス、乞食モナラズ、是非ナク、其親類ヲ便リ、

31 隱忍^レ志^ヲ改^メ教^ニ隨^ヒ飢^ヲ凌^ク為^ニ必耕作^ヲ
2 手傳^ヒ或^ハ索^ヲ絢^席織^リ履^ヲ搨^又種種^ノ
3 手職^ヲ習^ヒ執^居シテ業^ヲ為^シ却^テ人^ノ不足^ヲ
4 補^ニ國土^ノ益^ト成^ベシ是^レ古聖人^ノ肉刑^ノ本意^也
5 也御當國^ノ如^ク人少^キ地^ニテハ尤宜^キ法^ナ
6 ナル^ハシ就^中當今^ノ燒印^ノ御法^{アレ}ハ其代^ニ
7 黥^則等^事ハ御用^ヒモ容易^{カル}ヘシ御尋^ノ

三十一

三十二

1/32
1 大賊^モ大概^ハ追放^者ニアリ^ハ西^ノ黥^{アリ}白人^モ
2 捕^工ハ目明^ニモ及^バス^コナリ^ハ嗚呼^{天下}
3 一同盜賊^ノ戒^ニ肉刑^ハアリ^タキ事^也
4 一佛法^ハ人^ノ内心^ヲ和^ラク王法^ノ助^ケ成^ト果^國
5 本朝盛^ニ行^ハルト雖^モ近世^ニ至^リテハ道德^ノ僧^生
6 セス殊勝^ノ教化^ナク種種^ノ賣^主ヲ為^シ民^ヲ迷^シ
7 金錢^ヲ貪^ル是亦^レ民^ノ一^ノ害^也

御先君義公様ノ御時、御國中ノ神社佛寺、多ク
破却游サレ、其弊ヲ正シ給ヘトモ、今ヲ以テ是ヲ
觀ルニ、尚マカ多シ、是モ國ノ游民ナレハ、多キハ
民ノ害也、佛者ハ本ヨリ、樹下石上ヲ栖トシ、頭
陀乞食ヲ行トシ、隙アラハ、學問坐禪ヲ專ニ為
ヘキ事ナルニ、當時ノ僧ハ、律儀ナク、酒囊飯袋ニテ、
碁象棋ヲ樂ミ、衣服ヲ飾リ、官位ヲ好ミ、普請

建立ヲ專一トシ、金錢ヲ求ム、才學見方便ヲ以テ、
愚民ヲ誘フ、賴母子、富札ナトヲ興行シ、貸金ニ
出シ、利息ヲ取ル、借ルヲ以テ是トスル愚民ノ常ナリ、
畢竟坊主肥シモナリテ、民ノ害也、何事ヲ其處、
相應民盛衰ニ任スヘキ也、寺寺モ修理ノナラザル
時節ニ至ラハ、零々落モ可也、破壊シテ、菴室ニ
テモ事濟ナリ、強ク計略利算ヲ以テ、寺堂

1/35
修理結構スルコトハ却テ殊勝ナラサル也

2
國君ノ御菩提所或一宗ノ本山檀林地ナトニハ

3
無盡財モ有ヘシ其外ノ寺院ハ菴室同前ニ

4
テモ然ルベケレハ修理金ナトハ無用ノ事ナリ

5
鐘カ子ハ六時ヲ告ル故ニ利益モ有ベシ鐘撞者

6
モナク晨昏モ撞ツカ又鐘ヲ寺寺毎ニ拭ツク置ヤ

7
ウナ無益ナルコト多クアリ

1/36
一或曰窮民借金セザレハ渡世ナラズ然トモ高利

2
ノ金ヲ借リテハ亦百世哀微ス寺院ノ修理金ヤ

3
拜借ナトハ安利ナル故ニ悉ク民ノ惠心ニ成シ云義

4
アレトモ是ハ始終ノ思案ナク國主ノ大體ヲ知

5
ラザル者ノ言ナラン夫レ國ヲ理ルハ青砥左衛門

6
ノ燧袋ノ意ナルヘシ一人一人ノ利ヲ見ズ國中ヲ

7
平均シテ視レハ興廢盛衰自然ノ理也借ル者モ

貸入者モ共ニ百姓ノ中ナレハ、借リ人 潰レテモ、貸入
 起テ、其身上 厚クナレハ、人馬ヲ増シ、田畠ヲ肥シ、子
 弟ヲ取立、寵ヲ分テ、百姓數 ヲユル故ニ、畢竟スレ
 ハ、國ノ損ナシ、殊ニ友百姓ヨリ借ル金ハ、返済ノ時節、
 遲速自由也、利息ヲ畏レテ早ク返済スルモアリ、至極
 ニ詰シハ、不義理シテモ濟フアリ、相對ノ二割ハ、拜
 借ノ一割ヨリモ、借人ノ爲ニハ宜シケレドモ、貸入者ノ常

三十一七

ニテ、相對借ヲハ、多ク不義理ヲスル故ニ、自然ト、貸
 入モ少シ、是ニ由テ、拜借ヲ願フ、内證借ハ、高利ニ
 テ窮民痛ムト言立、御救ヒ金ト名付、拜借、或
 寺院修理金ヲ借リ、一時ノ苦ヲ凌クト雖モ、貧病
 漸漸重クナリ、一生平愈スヘカラス、近年分限アル百
 姓、役義ヲ長ク勤メ、拜借ヲ操リ、廻シ、一度ニ大破ニ及フ
 者アリ、拜借ヲ潰ル者ヲハ多ク見ル、拜借ヲ起ル者ヲ

三十一八

見ルナシ御救ニ八成ハカラズ

一 金錢貸借ノ古ヨリ無テ叶ハヌ事也其急用必

用ノ事至リテハ利息ノ高下ニモ因ラズ早ク辨

スルヲ以テ可ナリズ然レトモ愚民ノ常ニテ借ルヲ

賜ノ如クニ思ヒ平生續ケテ借ルヲ是トスル習ヒハ

安利息ハ勿論假令無利息ノ金ニテモ借テ益

見者ニアラス今年不足ノ身上ハ來年モ不足スル

三十九

四十

1/40

故借金ヲ濟スハ無利息ニテモ成カクシ拜借

ノ願濟ハ御救アリト悦ヒ末ヲ量ラズ有任

セテ飲食衣服器物ヲ或メ家業ヲ油断ニ埒モ

ナキ者也縱ヒ上ノ御藏ヲ開キ金數多ク施行

ニ賜ルトモ其當座バカリニテ國ノ澤ヒニ永ク成ル

ニアラス況ヤ特借ノ御救ニ成ルベキヤウナシ孟子

所謂稱貸而益之ニテ餘計ノ貢トナル故於民痛

トナル朝四暮三ノ術也

一 拜借ハ民ノ御救ニナラズトモ其利息上ノ

御益ニナルハ格別ノ也然ルニ近年寺院ノ修理

金御役所ノ御支配アリ是ハ游民ヲ肥シテ

農民ヲ自然ト瘦ラス方ナレハ御用捨アリ

タキ事也

一 借具内證相對通用流行ヌルマウ宣キ程ハ

御政務アルベキナリ

二 近年御救賴母子ト云事アリ末末何程ノ御

救威モ計リ難ケレトモ是モ拜借同様ニ御

借シ出成ナレ其金ノ元隨ヒ借人モ多ク

ナラハ民ノ痛ニ重シ墮落者ハ多ク

ス大利ヲ得シトモ微幸事ナレハ博奕ノ勝ニ似

テ長ク其者ノ福トモナラズ又御債闡ト云有

願フ者ニ貸サハ毒ナルニ願ハヌ者ニ強テ毒ヲ與ル也

一

民ヲ御救ハ、善政ニ如ハナシ善政ハ他ナシ
奢ヲ禁シ、懶惰ヲ戒メ、農ヲ勸メ、游民ヲ抑メ、
不義ヲ懲シ、惡心人ヲ罰シ、左道ヲ退ク、有功
ヲ賞シ、過ヲ赦シ、輕罪ヲ宥メ、民ヲ使テ、
農時ヲ妨ケス、民ノ害ヲ除キ、或天災旱魃、
水非常ノ難ナラハ、甲乙ヲ察シ、有餘ニ取テ、不足

ヲ補フ、類所謂、實而不費ナルハ、餘計ノ

聚斂苛政ナキ、民ノ身上、自然ト困窮スルハ、

皆人人ノ手ノ負也、是ヲ御救アルハ、堯舜

モ其猶病リ況ニヤ、貸借等ニテ、御救トハ、

人ノ樞苗ニ同カラシ

百姓ノ身上、困窮ニナリタラハ、先早ク潰ルカ

良計也、愚ニ九村役人、百姓ノ潰ハ、不便ナル

然トモ出納ノ法ナシト見ヘテ、飢饉凶年ナラザル時
 一 村困窮ノ願アル御救トテ、御貸出シアリ、御救
 二 ト云ヘハ御仁政ノ様ナレトモ、常平、義倉ノ法ニ
 三 非、夕トヘ藏ニ充滿スルトモ、平年ニ開キ給フハ、
 四 丁ニアラジ、若シ飢饉ナラズトモ、凶年十六、雜穀
 五 直段至極高直ナルヘシ、此時ニコレ、御貸出
 六 元有ヘキトナリ、下直ノ年ハ凶年ト云トモ、實ノ
 七

四十五

凶年ニ非ス飢ニ及フトナシ、民ノ困窮御救
 一 別ニ御政務有ヘキナリ、御稗ハ無利自息故ニ、
 二 借人モ他ノ拜借書リハ有難ク思ヘトモ、金子
 三 ノ代
 四 非ルベシ、殊ニ其拜
 五 借稗ヲ下直ノ時ニ賣給、少シノ金ヲ配分シ返
 六 納、比ハ高直ノ稗ヲ買納故ニ亦漸ク痛ニ
 七 ナリ、始終御救ニモナラサレナリ、御貸出

アルハ善シトモ下直ノ年ニ出シ給フハ常平倉ノ法ニ非ス常年ハ賤キ時ニ納テ貴キ時ニ出ス

法也

一 義倉ハ飢饉ノ備ナリ。一萬石程ノ郷ニ一箇所宛モ置タキ事也。豊年ツキ穀甚下直ノ時ニ中民以上ヨリ少シ宛糶ヲ集メ義倉ノ基トシ富居キ高直ノ時ニ願ハ者ニ貸出シ利息ヲ取り豊年ニハ

四十七

納置キ凶年ニ貸出シ漸シクマシテ飢饉ノ備ト

成タキ者也。當時ノ御被頼母子ノ御貸闈ナトハ

借人ハ悦トモ實ハ害ト成ヘキ也。如是金ノ當年

ナドノヤウナル下直ノ糶ヲ買居キ義倉ノ種子ニ為

タキ者也

八卦ヲ用ル占ハ周易ヨリ出タリ。聖人始メ給フ其本意

ハ盛衰變化ノ理ヲ悟リ時ノ得失皆天命アルヲ知ル

事也。凡庸ノ小人容易ニ學知ヘキ義ニアラス唯其

1/49
 時ニ至リテモ、御用ニ立テ、有ベカラス、早ク伐テ、
 傍ノ良木ヲ肥スベシ。間ノ遠クナラハ、苗木ヲ
 植ツグベシ。是小事ナレトモ、御國利ナルヘシ
 一 海道筋此邊ノ土橋トモ、洪水アレハ、柱イマダ朽
 サルニ、皆流ル柱ニ貫クナキ故ナルヘシ。若シ貫ア
 リテ、陰陽鳥居ノ如ク組合セ、桁以上ハ水ナハ越ハ
 速ニ輕ク剝レテ流ル、ヤウニ作ハ、梁ヨリ下ハ

四十九

1/50
 何程ノ大水ニテモ、動ク多シ。假令橋ハ落ルトモ、
 梁ヨリ下カ残シハ、假橋架ル入目ニテ、舊橋
 ニ成ヘキナリ、他處ノ橋ヲ見ルニ、小橋ト雖モ、
 貫木ヲ通サヌ柱ナシ

五十

一 當世天下一同諸侯大夫マテ困窮ナリト雖モ
 善政ノ國モアリ越後芝田領昔年ヨリ定法
 二 天國中ノ民七十以上ノ者ニ八年其杖
 持ヲ給ハル故ニ農民トモ親ノ長壽ヲ禱リ
 三 孝養スト云リ是八年ノ夥シキ費ナルベケ
 四 レトモ元來ヨリ分限ニ定テ置ハ成トト
 五 見ユ又仙臺之家臣金山城主中嶋与市ト

五十一

六 ヤラ云者唯三百貫ノ分限ナレトモ三四年以
 七 丑年大風ニテ城下一時ニ残ラズ燒失ノ時城寺
 八 リ燒類ノ人數ニ團飯ヲ与ヘ三日扶持ヲナス
 九 家作ノ材木入用ノ分ハ注文願ノ通り施シ者
 一〇 請中ノ糧米用錢ヲ家毎ニ与ヘ其外ニ無利
 一一 息金ヲ貸ス是ニ由テ倉庫ヲ空ニシ一里餘ノ
 一二 立山ヲ伐盡テ施シタリトテ其燒類トモ城主

五十二

仁惠ヲ感シ、涙ヲ流シ物語ルヲ、我其時其城
 下へ行テ親 是ヲ見聞仕ル
 一 五帝三王ノ政ハ姑舎是前漢ノ文帝自ラ節儉
 ヲ行ヒ、倉廩充テ、度度民二年貢ヲ免シ、耕ハ
 作り取ヲサセ給フ、近クハ
 御先君義公様三年村檢見ヲ仰出サシ、百姓各自
 其村ニテ、存分引ヲ立テ奉ル、アマリ有難サニ引

方、不足ナルヲ憐ニ給ヒ、三年目ニハ小檢見ニ命
 シテ、大引ヲ賜アルヲ、漢文ノ仁政ニモ勝シリ、是
 ヲ以テ觀レハ古今ニハ限ルヘカラス、出納ヲ量リ、
 制度ヲ定メ、節儉ヲ行ヒ給ハ、御國用
 足サルヲ有ヘカラス、節儉ノ事聖人ノ道モ皆御合
 点ノ義ナレトモ、御格式ト云フヲ、大功ニ守リ給フ
 故ニ如何トモスベカラス、國ヲ理ルノ要道ハ禮法也

朝聘冠昏葬祭度弔之禮元ヨリ定リテ變動

スベカラスト雖モ時變ニ應シテ少ノ損益ハ有

ベキナリ況ヤ御格ハ正禮ニアラズ

國君時時ノ御賢慮ニテ御始ノ有ニ事カ御

格トナリシ者ナレハ亦時時ノ御賢慮ニテ

世ノ豊儉ニ順ヒ御變改アルベキナリ御先

格ヲ正禮ト同ク少シモ變動ナラヌト堅ク守

1/56 リ行ツマル故ニ御儉約アルヤウニテモ御益ナル

2 程ノ事ハアラシ御借金アルヤウニテハ御分限ニ非

3 ト云ヘシ節儉ノ行ヒ此ニ在ヘシ縱ニ御先格ヲテ

4 五量入為出ノ御算用ニ足ズシハ御改變アリテ

5 諸事ヲ御減少アルヘキナリ御分限宜クハ御逼

6 迫ハナキ理也是ヲ本ヲ理トモ申ヘキカ本ヲ理

7 ズ末ヲ求メ急ニ金錢生殖ノ事ヲ計ルハ商家

1/57
 一 道也、假令貨殖ノ道有トモ、國政ノ常道ニ
 非レハ、一旦ノ利アリトモ、亦故障ノ一アリテ、
 遂ニ永ク御益ニ成ヘカラス、當今
 御賢明ノ御時ニ、古聖王ノ制ニ因リテ、諸事ニ節
 儉ヲ御用ヒ有ハ、數年ノ間ニ調フヘシ、然トモ、
 御格ノ事ハ有司ノ議スルヲ能ハサル所ナリ、故
 ニ、時流ヲ超、舊弊ヲ去リ、御先格ヲ改メ、御國

五十七

1/58
 政ヲ定メ給フ事ハ、
 上御一人ノ御勇斷ニ在也、是守成ノ創者ヨリ

赤是
 立羽折枝之謂ナルハシ

五十八

難ト魏徵ノ論スル所ナルトシ

夫富貴貧賤皆天命也、貧賤ハ士庶人ニ限リ、富貴ハ
 王侯ニ限ル事ナレハ、御大名ノ御困窮ト云名目
 ハ有マシキ道理ニ、御耻辱ナルヲ也、其御
 困窮ハ何故ソヤ、太平ニハ物事華美ニナリ、

種種ノ御格初リ。制度ノ法ヲ失ヒ、御國用不
足スルニ非ルヲ得ンヤ

君惟風民惟州ナリ民ノ奢リモ困窮モ其因ル

所有ハキナリ

是レ守成ハ創業ヨリ難ニト魏徵ノ論

明和十年癸巳初冬之日謹書之

長久保玄珠